

# 21世紀における 宗教の役割と 同志社の展望

## Overview

- 「つなぐ力」としての宗教
- グローバル・アクターとしての宗教
- 同志社の展望

## 「つなぐ力」としての宗教

## 宗教の起源

- 死者の葬送
- 死者からの影響を抑制するための「とむらい」
- 例：御霊信仰（平安時代）。869年、御霊会→祇園祭
- 見えない世界との交流
- **テレプレゼンス**への本源的欲求



## テレプレゼンスへの憧憬

- テレプレゼンスとは
  - 日常世界から遠く離れた場所や時間を身体的に経験すること。
- 現代の例：  
    テレフォン、テレビジョン  
    携帯電話（スマートフォン）  
    バーチャル・リアリティ



## テレプレゼンスの歴史

- テレプレゼンスの起源
  - 日常世界と超越的世界の交流
  - 死者と生者の交流
  - 人間の「こころ」の深層（たましい）との交流
- テレプレゼンスを可能にするバーチャル空間
  - 祭り、教会堂（絵画・アイコンを含む）など



## 過去と現在を結ぶテレプレゼンス

- 現代におけるテレプレゼンスの特性
  - つながっていることへの安住 (→脱出の忘却)



## マトリックス (The Matrix, 1999)



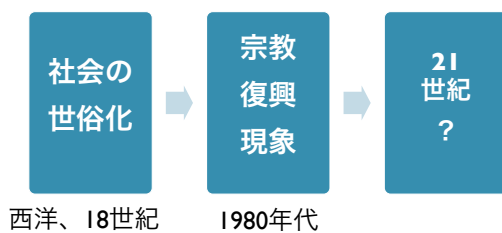
## 過去と現在を結ぶテレプレゼンス

- 新島襄の生き様、同志社の歴史を学ぶことの意味
  - ロール・モデルとしての新島襄



## グローバル・アクターとしての宗教

## 20世紀後半の変化



## 世俗化とは？

- 宗教が社会に及ぼす影響力の低下。西洋のキリスト教社会がモデルとなっている。
- もともとこの言葉は、宗教改革の時代に、教会の財産（土地や建物など）を行政に譲渡することを指して用いられ始めた。そこから、土地などが教会の支配から解放されると同様に、社会や文化が教会権力から解放され、キリスト教の影響が次第に減退していく現象を広く世俗化と呼ぶようになった。
- 1980年代以降、世界的な「宗教復興現象」が起こることによって、世俗化論は根本的な見直しを迫られることになった。

## 「原理主義」とは？

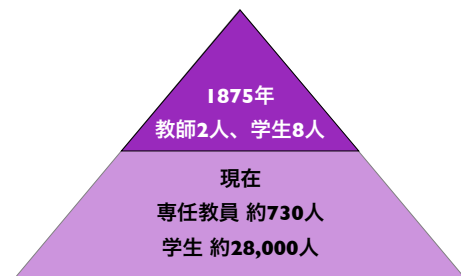
- ファンダメンタリスト (Fundamentalist)
- 1920年代に、キリスト教保守派が進化論や近代的な聖書批評学と対決するために用いた「自称」であった。
- イラン・イスラーム革命 (1979年) 以降、警戒すべきイスラーム運動に対して原理主義という言葉が転用された。

## グローバル社会における「原理」の模索

- 原理主義の原型としての宗教改革
  - 「聖書のみ」「信仰のみ」
- グローバリズムとその反動
  - 固有の文化、その核にある宗教性の強調。  
cf. 中東の民主化運動におけるイスラーム主義

## 同志社の展望

## 同志社の変化



## 同志社の教育理念

